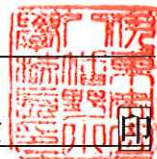


事業実施報告書

学校名 伊東市立八幡野小学校



校長名 渡邊 久士

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	全校児童 332名 保護者50名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () 行事名 (オリパラ教育講演会) ② その他 (PTA活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	平野美宇選手のお母さんに子育て、小学校時代の美宇選手の様子等を聞くことによって、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。
5 取組内容	(準備) ・学年の発達段階に応じて、オリンピックや平野美宇選手のことを調べ、理解を深める。 ・図書室にオリンピックコーナーを設置し、児童の興味関心が高まるようにした。 ・平野選手やお母さんに質問したいことを考える。 (当日) 全体を3部構成とし、10:10～第1部（低学年）、11:10～第2部（高学年）、12:10～第3部（PTA）と3回に分け、参加者に応じた内容の講話をしてもらう。具体的なプログラムは下記のような内容で行った。（基本的に内容はすべて同じ） 1 始めのあいさつ 2 講師紹介 3 講演開始 ・児童や保護者から寄せられた質問に答える形式 4 お礼の言葉 5 終わりの言葉 ※ 保護者への講演会の後、個々の相談に応じた (事後) 学習を振り返り、まとめを行う。（お礼手紙等も）

6 主な成果	講演会より ・児童から出た質問ひとつひとつに丁寧に答えていく形式であったため、児童も自分の出した質問に対する答えという意識があり、興味関心を持って話を聞くことができた。 ・小学校段階の3姉妹の話は身近に感じることができ、普段の生活の中に生かせる内容であった。また、学校生活や習い事に対する心がまえに関する話が多く、今後の糧となるものであった。 ・小学校の教師を以前経験されているということもあり、話し方が明瞭で子どもたちの聴く姿勢にも声かけもしながらの講演で指導者にとっても参考になるものであった。 ・子どもたちが夢や目標に向かって前向きに努力したり、そのためには家族の支え合いが必要であったりする内容が多く含まれており、これから意欲的に生活していこうと思えるような内容であった。 ・保護者の立場に立って、適切で前向きな話を聞くことができ、子育てをする上で大変参考になる内容であった。 ・発達障害がある三女の話も包み隠さず本音で語る姿に好感がもてた。同時に同じ悩みをもつ保護者にとっては大変参考になるものであった。 ・保護者への講演会終了後、保護者個々の相談に対して、助言をしてもらった。保護者にとって大変励みになると同時によいアドバイスを受けたと好評であった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置し、児童の興味関心を持って参加できるようにした。 ・事前指導を行ったことにより、平野美宇選手がどういう人物であるのかを一定の知識を持って参加できた。そのため、その選手のお母さんに対して興味関心が高まったり、親近感が増したりした。 ・児童個々の質問に答えるという形で、「〇年〇組〇〇さんからの質問です。」と呼びかけた後に答えたため、会場が盛り上がり、真剣に答えを聞くことができた。 ・保護者講演会を行った後、保護者個々の相談に応じたことは、保護者にとって大変有意義であった。 ・パネルや写真等を持参してくれたため、会場の雰囲気が高まった。
8主な課題等	・打合せの時間が十分にとれなかったため、当日の打合せとなった。そのため、質問を絞り込んだり、時間の調整を行ったりできなかった。結果、計画よりかなり時間がオーバーしてしまった。 ・学期末ということもあり、時間の制約があったため、事前事後の指導が十分できなかった。 ・子どもにとっても、大変有意義な時間となったが、保護者への影響力がよりあった。もっと多くの保護者に参加してもらう手立てを打てるとよかった。 ・予算が限られているため、かかる費用を考えながらの計画となった。
9来年度以降 の実施予定	未定（予算が取れるなら、継続して考えたい）